

平成 30 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■共同研究 3	公益目的事業 11
主査名	堀田一吉 慶應義塾大学商学部教授	
研究テーマ	シェアリングエコノミーと自動車保険	
研究の目的： ビッグデータと AI を駆使した新しいビジネスモデルとして、シェアリングエコノミー（共有経済）が、近年急速に進展している。現在では、ライドシェアなどによる自動車の配車サービスを提供するウーバー（Uber）、空き部屋の民泊をネットで仲介するエアビーアンドビー(Airbnb)、駐車場の貸し出しを行うアキッパなど、さまざまな分野で実施されている。そこで本研究では、シェアリングエコノミーの普及が、とりわけ自動車保険システムにどのような影響を及ぼしているかについて、現状分析ならびと将来課題について考察をする。		
研究の経過（4 月～3 月）： 具体的な議論が進められているシェアリングエコノミーをめぐる現状ならびに展望と、法的課題を中心とした内容で、前期は、専門家を招いて、3 回の研究会を開催した。参加者同士の意見交換を通じて、次第に、問題の焦点が見えてきたところであるが、いうまでもなく、ビッグデータ・AI 技術の進展は、保険システムに限らず、社会システム全体に大きな影響を及ぼすものであり、さまざまな現象が相互に関連している。今回のテーマであるシェアリングエコノミーを含めた問題領域の確定を模索する議論を交わしてきた。これからどういう道筋で研究を進めていくべきかについて、もう少し展望をもって進めなければならないと考えている。		
研究の成果（自己評価含む）： 急速に台頭するシェアリングエコノミーは、企業自体もモノを所有することなく、多数の借り手と多数の貸し手を、インターネットを通じて、プラットフォーム企業が仲介する仕組みである。シェアサービス自体は、これまでも、レンタカー、リース事業、貸衣装、など、モノを貸し出して、サービスを提供するビジネスは存在していた。しかし、急速に台頭するシェアリングエコノミーは、企業自体もモノを所有することなく、多数の借り手と多数の貸し手を、インターネットを通じて、プラットフォーム企業が仲介する仕組みである。現在では、ライドシェアなどによる自動車の配車サービスを提供するウーバー（Uber）、空き部屋の民泊をネットで仲介するエアビーアンドビー(Airbnb)、駐車場の貸し出しを行うアキッパなど、さまざまな分野で実施されている。 保険業も、これまで主として「所有」の経済システムに基づいて保険サービスを提供してきたが、今後「使用」の経済モデルに基づいた生活スタイルが普及すると、これまでの保険が対象としてきたリスクも変質せざるを得ないことを再確認した。		
今後の課題： シェアリングエコノミー（共有経済）は、ビッグデータと AI を駆使した新しいビジネスモデルである。現在の保険業、とりわけ自動車保険は、いわゆる CASE(Connected, Autonomous, Sharing, Electric) 革命に直面している。IoT(Internet of Things)が普及する中で、自動車は重要な情報拠点となっており、自動車を巡る技術進歩は、保険業界のみならず、社会構造を大きく変えようとしている。そうした状況を踏まえて、今後、こうした技術進歩が自動車保険市場に及ぼす影響について、保険理論、保険経営や法的整備、さらには、社会経済への影響など、多角的論点から研究し、議論を深めていきたい。		